

2025年（令和7年）7月24日（木曜日）

女性活躍できる社会に

元日経ウーマン
編集長の麓さん 市民おもしろ塾で講演

大館市比内町在住のジャーナリスト・作家で元日経ウーマン編集長の麓幸子さん（63）の講演「バタフラ



「小さな行動が大きな変化を生む」と訴えた麓さん（能代市中央公民館で）

「イエフェクト」私たちの今の行動が未来をつくる」がこのほど、能代市中央公民館で開かれた。女性の活躍を阻む構造的な課題を明らかにし、「どんな人でも生きやすい社会」を訴えた。

大館市出身の麓さんは日経B.P.で日経ウーマン編集長や執行役員を務めた後、平成31年に退社。同市長選に3度挑戦したほか、知的障害者らの就労支援を行うB型事業所「比内ビルズ・ふもとの家」を立ち上げ、いふりがつこ製造など6次産

業化にも取り組む。県手をつなぐ育成会副会長として障害者支援にも力を注ぐ。

講演では、人口減と地方衰退の象徴として「消滅可能性自治体」とされる本県の現状に触れた。「若い女性の割合が全国で最も少ない。進学や就職を機に県外へ出て戻らない。背景には男尊女卑的な保守風土がある」とし、若年女性にとっ

て「地方の女性の在り方は江戸時代のまま」との厳しい声も紹介した。

本県の総人口は今年1月時点で89万2390人（女性53%、男性47%）と、1956年のピーク（135万人）から大幅に減少した。

65歳以上の高齢化率は約4割で、若い女性の流出が深刻な現状を指摘。秋田市以外の自治体は「消滅可能性自治体」。2050年までに20～30代の女性が半減する」と危機感を示し、男尊女卑的な風土や女性が活躍しにくい環境が原因と分析した。

日本はジェンダーギャップ指数で148カ国中118位と後進国だとし、家庭や育児、介護の負担が女性に偏る現状や能力に見合わない評価の不平等が「自分には無理だ」と諦めさせてしまう構造を批判。「これは個人の問題ではなく社会全体の問題」と力を込めた。

蝶効果にも触れ「小さな行動が大きな変化を生む。理不尽にはノーと言い、誰もが生きやすい社会を目指してほしい」と呼び掛けた。講演は市民おもしろ塾が主催し、約40人が参加した。